

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
作業療法学概論 A	1	15	OT 1 年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
渡辺 慎介	講義		401 教室	
目 標	<p>一般目標 (GIO) : 作業療法とは何かを平易な言葉で説明できる</p> <p>行動目標 (SBO) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法の流れを説明できる ・ 作業療法の定義を覚え、その意味を説明できる ・ 作業療法の歴史を知り、作業療法の起源を説明できる ・ 領域別作業療法について、資料をまとめ、他者に分かりやすく説明することができる 			
授 業 の 概 要	<p>1～2. オリエンテーション (授業展開方法、成績評価法等)</p> <p>作業療法とは? 作業療法のプロセス P2～20</p> <p>作業療法の定義 P86～93</p> <p>3. 作業療法の歴史 (世界) P22～33</p> <p>4. 作業療法の歴史 (日本) P34～84</p> <p>5～7. 身体障害、精神障害、発達障害、高齢期、地域作業療法の作業療法調査 P96～194</p> <p>8. 発表&まとめ</p>			
教科書	<p>教科書 : 作業療法学ゴールドマスター・テキスト</p> <p>作業療法学概論 改訂第 2 版 (メジカルビュー社)</p> <p>参考書 : 作業療法の世界 第 2 版 (三輪書店)</p>			
成 績 評 価 法	<p>形成的評価 : 調査と発表時のフィードバック、小テスト</p> <p>総括的評価 : 期末試験</p>			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
作業療法学概論 B	1	15	OT 1 年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
東野 幸夫	講義		401 教室	
目 標	<p>一般目標（GIO）：作業療法士の倫理観を説明することができる</p> <p>行動目標（SBO）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法に関連する学問の概要を説明できる ・ 作業療法理論の概要を説明できる ・ 作業療法士に必要な倫理観を説明できる ・ 作業療法に関わる診療報酬の枠組みを説明できる ・ 作業療法で用いる治療道具や方法を説明できる ・ 理学療法の仕事内容を説明できる 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 作業療法周辺の学問 P196～219 小学校から専門学校教育カリキュラムまで 哲学、倫理学、社会学、文化人類学、教育学等の学問紹介 3. 作業療法に関連する他職種とその役割 P220～225 4. 作業療法の理論概観 P228～287、職業倫理 P290～299 5. 記録と報告 P300～305、診療報酬 P306～310 6. 理学療法概論 PT 教員による講義 PT の歴史、仕事内容の概要 7～8. 作業療法に関する治療道具、治療方法、手技等 7月下旬の作業療法概論演習（3日間）での課題とする 7～8回の講義自体は報告会として8月上旬に開講する 			
教科書	<p>作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業療法学概論 改訂第2版（メジカルビュー社）</p>			
成 績 評 価 法	<p>形成的評価：毎講義後の小テスト</p> <p>総括的评价：期末試験</p>			
備 考				

授業科目		単位数	時間	対象学年	学期
作業療法学概論演習		1	30	OT 1年	前後期
担当教員		授業形態		主な講義室	
東野 幸夫		演習		401 教室等	
目 標	<p>現場での作業療法士の仕事の実際が説明できる。</p> <p>対象者とのコミュニケーションを通し、社会人として適切に振舞うことができる。</p>				
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション①（実習目標等説明） 2. 実習オリエンテーション②（実習配置発表・実習施設情報収集） 3. 実習オリエンテーション③（実習事前連絡、提出課題説明） 4. 身障系病院見学①（7月24日） 5. 身障系病院見学②（7月24日） 6. 身障系病院見学③（7月25日） 7. 身障系病院見学④（7月25日） 8. 身障系病院見学⑤（7月26日） 9. 身障系病院見学⑥（7月26日） 10. 発表①（7月27日） 11. 発表②（7月27日） 12. OT啓発活動（宇部・小野田地区） 13. 実習オリエンテーション・講義③（精神疾患、精神科 OTについて） （実習前課題 統合失調症、認知症について、実習課題 など） 14. 精神科病院見学①（2月上旬） 15. 精神科病院見学②（2月上旬） 				
教科書	なし				
成 績 評 価 法	実習報告会において、オリエンテーション内で指示された内容を適切に報告されることと、実習施設からの実習状況の報告により判断する。				
備 考					

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
作業学	1	15	OT 1 年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
渡辺慎介	講義		401 教室	
目 標	<p>一般目標 (GIO)</p> <p>作業療法の基礎学問である作業科学を学ぶことで「作業」に含まれる特性を理解する。</p> <p>行動目標 (SBO)</p> <p>① 自身の生活がどのような作業で構成されているかを列挙する</p> <p>② ①で挙げた作業にどのような形態・機能・意味があるかを列挙する</p> <p>③ 作業的公正、不公正の概念を説明する</p> <p>④ 作業の視点で自身や他者を理解することができる</p> <p>⑤ 作業を治療として用いる際に必要な作業分析の仕方を理解する</p>			
授 業 の 概 要	<p>1. 作業の定義、分類、効果、作業的存在の概念を説明できる。 作業の視点で「ひと」や「社会」を見る。</p> <p>2. 作業バランス自己診断を用い、自身の生活を構成する作業を列挙する。</p> <p>3. 自身が現在担っている役割を列挙する。 作業的公正・不公正の概念を知り、自身の例を考えて列挙できる。</p> <p>4. 作業の形態・機能・意味の概念を理解し、説明できる。</p> <p>5~6. 作業の視点で自身や他者を知ることができる。 ワークショップ「作業的存在である自身に気付く」</p> <p>7~8. 作業の階層を説明できる。 作業分析とは何かを説明できる。包括的・限定的作業分析。 工程、動作、運動分析ができるようになる。</p>			
教科書	<p>教科書：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院</p> <p>参考書：「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版</p>			
成 績 評 価 法	<p>形成的評価:グループワーク時のフィードバック</p> <p>総括的評価:筆記試験 80%, 授業態度・演習の取り組み方:20%</p>			
備 考	<p>各作業・グループワークへの取り組みに対し、主体的に考え、行動することを期待する。</p>			

	授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
	作業学実習	1	30	OT 1 年	後期
	担当教員	授業形態		主な講義室	
	河本玲子	実習		401 教室、手工芸・木工金	
目 標	<p>一般目標（GIO）：「作業」を実際に経験することで、楽しさ・難しさを体感し、各作業にどのような特性があるのか分析できるようになる</p> <p>行動目標（SBO）</p> <p>①各作業がどのような工程で行われるかを列挙することができる</p> <p>①各作業で使われる材料や道具を扱うための能力を列挙することができる</p> <p>④各工程でどのような治療的意義があるかを列挙することができる</p> <p>⑤グループワーク・発表を通して、まとめる、表現する、伝える経験をするグループメンバーに伝えることができる</p>				
授 業 の 概 要	<p>1～2. 講義のオリエンテーション</p> <p>ちぎり絵演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料の扱い方を理解する。ちぎり絵の包括的作業分析を記録用紙に沿って行う。</p> <p>3～7. 革細工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料の扱い方を理解する。革細工の包括的作業分析を記録用紙に沿って行う。</p> <p>8. 手短に準備できる材料で実施できる簡単な作業を紹介し、治療的応用の可能性を説明する。</p> <p>9～12. 木工演習を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。道具、材料の扱い方を理解する。木工の包括的作業分析を記録用紙に沿って行う。</p> <p>13～14. グループ活動を通して作業をする楽しさ、難しさを体感する。グループ活動の集団構造分析を記録用紙に沿って行う。</p> <p>15. その他主要な作業活動の工程、道具、材料の扱いについて理解する。講義のまとめ 包括的作業分析の手順を説明できる。</p>				
教科書	<p>※適宜資料配布</p> <p>参考書：標準作業療法学 専門分野「基礎作業学 第3版」 医学書院</p> <p>「作業」って何だろう 作業科学入門 医歯薬出版</p> <p>ひとと作業・作業活動 三輪書店</p>				
成 績 評 価 法	<p>各作業の活動分析レポート:50%</p> <p>授業態度・演習の取り組み方・作品の出来栄え:50%</p>				
備 考	<p>作業の進捗業況等により、作業内容や課題が変更されることがある。</p>				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
作業療法評価学総論	1	15	OT 1年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
河本玲子	講義		401 教室	
目 標	<p>作業療法評価学を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。</p> <p>行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法評価の目的と意義を説明できる。 ・ 評価項目を列挙できる。 ・ 評価の手段と目的が言える。 ・ 評価の手順が説明できる。 ・ 評価計画とはなにか説明できる。 ・ 記録・報告について説明できる。 ・ 作業療法の効果判定とは何か説明できる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価の意義と目的 2. 評価の項目 3. 評価の手順と手段 4. 評価計画 5. 評価実施上の注意点 6. 評価のまとめと治療計画立案 7. 記録・報告の意義 8. 作業療法効果判定 9. 確認テスト 			
教科書	<p>教科書</p> <p>標準作業療法学 作業療法評価学（医学書院）</p>			
成 績 評 価 法	受講態度、確認テスト、レポート等により総合的に評価する			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
作業療法評価学各論	1	15	OT 1年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
東野 幸夫	講義		401 教室	
目 標	<p>一般目標 (GIO) : 作業療法評価における領域共通の評価法の概念を体験的に理解し、それらを説明することができる</p> <p>行動目標 (SBO) :</p> <p>I : 面接項目と検査法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる</p> <p>II : 観察項目と検査法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる</p> <p>III : 日常生活活動評価項目を列挙し、それぞれの特徴を説明できる</p> <p>IV : 興味, 役割, QOL 評価項目を列挙し、それぞれの特徴を説明できる</p>			
授業の概要	<p>1. オリエンテーション・面接</p> <p>2. 面接 (COPM 実践, 記録) を実践し、要点を説明することができる</p> <p>3. 観察 (観察経験)</p> <p>4. 観察 (記録) を経験し、要点を説明することができる</p> <p>5~6. 日常生活活動評価 (ADL の範囲, ADL 評価の様式) を経験し、要点を説明することができる</p> <p>7~8. 興味, 役割, QOL 評価 (MOHO の評価法体験, 記録) を経験し、要点を説明することができる</p>			
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 (医学書院) P36~			
成績評価法	総括的評価 : 期末試験			
備考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
基礎作業治療学総論	1	15	OT1年	後期
担当教員	授業形態		講義室	
渡辺 慎介	講義		401 教室	
目 標	<p>一般目標 (GIO) : 作業療法理論やプロセスモデルを理解し、作業療法士としてのアイデンティティを育む</p> <p>行動目標 (SBO) :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法理論を学ぶことで、作業療法士がクライアントにどのような治療をするかを理解し、説明できる 2. ひとの意志、習慣、生活バランス、環境をどのように捉えるかを知り、説明できる 3. 治療構造論を理解し、作業療法士の思考過程を説明できる 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人-作業-環境モデル(PEO モデル)を学び、その概念を説明できる 2. 作業と結びつきのカナダモデル(CMOP-E, クライアント中心の作業療法)を学び、その概念を説明できる 3. 人間作業モデル(MOHO)を学び、その概念を説明できる 意志、習慣、環境の概念と関係性を説明できる 4. 作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)を学び、その概要を説明できる 5. 作業療法理論と実践 上記4つの理論と作業療法との結びつきを説明することができる 6~7. 治療構造論を通して治療計画立案方法を学び、手順を説明できる 8. 講義のまとめ 全7回講義の内容を列挙し、それらを説明することができる 			
教科書	標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院			
成 績 評 価 法	<p>形成的評価:グループワーク時適宜フィードバックする</p> <p>総括的評価:期末試験 80% 授業態度 20%</p>			
備 考	理論知らずして作業療法は語れない。専門性を養う意味でも積極的な学習態度を期待する。			

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
生活機能治療学	1	15	OT 1年	後期
担当教員	授業形態		講義室	
石丸 拓也	講義		401 教室	
目 標	<p>【一般目標】 国際生活機能分類とリハビリテーションの関連を理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.国際生活機能分類の各構成要素と相互関係を説明できる。 2.各構成要素の具体例を列挙することができる。 3.活動の能力（できる活動）と実行状況（している活動）について説明できる。 4.促進因子と阻害因子について説明することができる。 5.目標指向型リハビリテーションについて説明することができる。 			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1.国際生活機能分類とは 2.国際生活機能分類の構成要素と関係性について 3.心身機能・身体構造および障害について 4.活動・参加および活動制限・参加制約について 5.背景因子（環境因子・個人因子）および促進・阻害因子について 6.できる活動・している活動・する活動について 7.国際生活機能分類とリハビリテーション 8.まとめ（事例を通して） 			
教科書	<p>介護保険サービスとリハビリテーション -ICF に立った自立支援の理念と技法- （中央法規） （参考図書）</p> <p>ICF 国際生活機能分類 -国際障害分類改訂版- （中央法規）</p> <p>ICF の理解と活用 （萌文社）</p>			
成 績 評 価 法	<p>期末試験、レポート等により総合的に評価する。</p>			
備 考				

	授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
	基礎作業評価技術論 I	1	15	OT 1 年	後期
	担当教員	授業形態		主な講義室	
	上原奈緒子	講義		401 教室/レク室	
目標	<p>上位学年で作業療法評価学をスムーズに履修できるようにするために、身体障害領域で用いられる評価の紹介と実際の概要を学習する。</p> <p>行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意識・意識障害について説明できる。 2. 形態計測の意義を説明できる。 3. 関節可動域測定に必要な、関節運動が説明できる。基本軸・移動軸を説明できる。 4. 徒手筋力検査の実施方法、判定基準を説明できる。 5. 反射検査の代表的な方法を説明できる。反射異常の徴候を説明できる。 6. 感覚の分類、体性感覚の分類を説明できる。 				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. Vital Sign/身体計測 2. 身体計測 3. 関節可動域測定 4. 徒手筋力検査① 5. 徒手筋力検査② 6. 反射検査 7. 感覚検査 8. 片麻痺機能テスト (Brunnstrom test) 				
教科書	<p>標準作業療法学 作業療法評価学 (医学書院)</p> <p>適宜資料配布</p>				
成績評価法	<p>総括的評価</p> <p>授業態度、グループワークの取り組み、レポート課題、筆記試験により総合的に評価する。</p>				
備考					

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
障害者支援論	1	15	OT 1年	後期
担当教員	授業形態		主な講義室	
河本 玲子	講義		401 教室	
目 標	<p>障害者を身近なものとして理解し、先入観をなくして積極的に接することができるようになる。</p> <p>障害を持たれた方をひとりの人間として理解する意識と、障害を持たれた方を特別視しない意識をもち、健常者がもつ誤解や偏見をなくすることができる。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念 2. 障害をめぐる思想の展開 ① 3. 障害をめぐる思想の展開 ② 4. 制度の歴史的発展 5. 権利擁護 6. 障害者権利条約 7.~8. 障害のある人たちが地域で暮らすということ 			
教科書	なし			
成 績 評 価 法	レポートによって成績評価を行う			
備 考				

授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
障害者支援技術演習 I	1	30	OT 1 年	前期
担当教員	授業形態		主な講義室	
東野 幸夫	演習		401 教室	
目 標	<p>様々な学内外での活動における障がいを持たれた方たちとの交流を通じて、実際の支援が体験できる。</p> <p>学内外での活動に参加する際の、基本的な責務や注意事項について説明できる。</p>			
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 障害の理解について 3. 障害者スポーツボランティア オリエンテーション 4.~7. 障害者スポーツボランティア①~④ (第 17 回キラリンピック フライングディスク 5 月 14 日) 8. ボランティア経験発表 9. 認知症サポーター養成講座① 10. 認知症サポーター養成講座② 11. まとめ 12.~15. 実習ゼミ (作業療法概論演習のゼミ) 実習生プロフィール作成・フィードバック (2 コマ分) 個人情報保護誓約書等書類作成 (1 コマ分) 実習御礼状作成・送付 (1 コマ分) 			
教科書	なし			
成 績 評 価 法	成績評価は授業への参加態度と、各活動への取り組みの状況およびレポートにて判断する。			
備 考	障害者支援技術演習 I と II - A、II - B はそれぞれ個別で評価を行う。			

	授業科目	単位数	時間	対象学年	学期
	地域リハビリテーション概論	1	15	OT 1年	後期
	担当教員	授業形態		主な講義室	
	東野 幸夫	講義		401 教室	
目 標	<p>【一般目標】</p> <p>地域とは何かを理解し、障害を持って地域の中で生活していくことを支援していくことの重要性を学ぶ.</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域リハの定義を言える 2.地域リハの活動指針・視点を言える 3.病期別リハの特徴を言える 4.直接的支援活動例を列挙できる 5.組織化活動例を列挙できる 6.教育・啓発活動例を列挙できる 				
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1-3.地域リハとは 4.地域リハの歴史 5.地域リハとリハ医療 6.直接的支援活動 7.組織化活動 8.教育・啓発活動 				
教科書	地域リハビリテーション論 ver.7 (三輪書店)				
成 績 評 価 法	期末テスト、小テスト、レポートで総合的に判定する				
備 考					